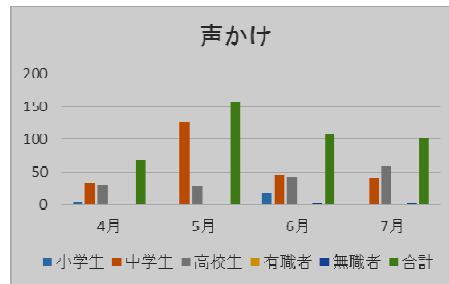
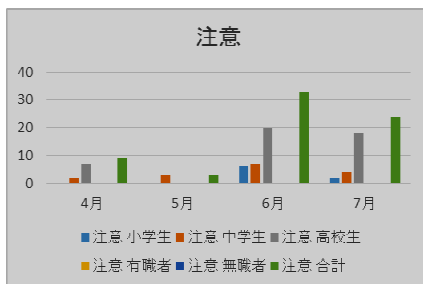


ご存知の通り育成センターでは、平日は毎日市内を回り、小学生・中学生・高校生や、有職者・無職者に対する支援や指導を行っています。そして、指導内容を喫煙・不良交友・男女不健全交際・怠学・校則違反・交通指導・注意・声かけ・その他に分類して記録しています。以下が本年度の7月までの結果ですが、4月と5月は新型コロナウイルスによる臨時休業日が多く、例年に比べて数値が低くなっていると思われます。また、本年度は現在のところ、注意と声かけのみの指導となっています。ちなみに昨年度は、喫煙8名、不良交友5名、男女不健全交際6名、怠学2名、校則違反1名、交通指導32名という記録が残っているので、現在のところ良い傾向が続いていると言えるのではないのでしょうか。



ご覧のように注意は6月から高校生を中心に増加し、声かけは5月から中学生を中心に増加しています。内容としては、交通面が多く、ノーヘルや二人乗りへの注意でした。

また、喫煙などの不良行為の指導はなく、遅刻して登校している生徒に対する声かけや、集団でたむろしている生徒に事情を聞くような事例が殆どでした。

コロナが落ち着くと人の動きが増え、児童生徒の動きも活発になることが予想されます。引き続き多くの大人の目で、しっかりと子どもたちを見守っていきましょう。

躰（しつけ）

核家族という言葉もほぼ死語になっている現在、お年寄りの知恵を借ることができず、子育てで悩む保護者が多いと耳にすることがあります。

Wikipediaによると躰とは：人間社会・集団の規範、法律や礼儀作法など慣習に合った立ち振る舞い（規範の内面化）ができるように訓練すること。ドイツ語では *die Zucht* と言い、これは人に限らず動物の調教・訓練などの意味もある。

こう聞くと、かなり強制的に押し付けるイメージが強くなりますが、対象を中学生に置いて考えてみると、そういうやり方が難しいと思う方も多いと思います。そこで、年齢に合った躰の在り方を、小学館「HugKum(はぐくむ)」より引用させていただきます。

《年齢にあった躰》

○1歳の躰はあいさつから

この時期は真似ることが上手なので、「おはよう」と親がお手本を見せましょう。

○2歳の躰はトイレの自立を

この時期は排泄機能が発達して「自分でやってみたい」という気持ちが芽生えます。「おしっこ出たね」といった大人の声かけを聞くことで「これがおしっこなんだ」と認識させましょう。上手にできたときは褒めてあげましょう。

○3歳の躰は後片付けを重点的に

おもちゃ箱や絵本箱など、片付けの場所を決めておき「使った後はあそこにしまえばいいんだ」

と覚え、親に言われなくても、自然と片づけるようになります。

○4歳の躰は生活習慣をしっかり身につけて

食事は一人で食べるだけでなく、こぼしたものの後始末をできるようにしましょう。また、排泄の後始末ができるように、衣服は自分で脱いだり着たりするだけでなく、脱いだ服をたたむことも教えましょう。うがい手洗い、鼻をかむ、手を洗いハンカチで拭く、自分で爪を切ることも教えましょう。

○5歳のしつけはルールを守らせる

このころになると、もっと遊びたい、テレビを見たいなどで、なかなか眠くてもなかなか寝ようとしないう傾向にあります。本当に眠くなくても、決めた時間にきちんと寝かせるようにしましょう。家庭での約束事やルールを守らせると、外でもルールを守ることができるようになります。

《子どもの叱り方の基本》

○叱るときは短い言葉でストレートに

- ・生命にかかわる危険なことをしたとき
- ・ひとに迷惑をかけることをしたとき
- ・家庭や社会のルールを破ったとき

○上手な叱り方

子どもを叱るときは短い言葉で「それはだめ」「こうしなさい」とストレートに伝えましょう。難しい言い方で、長々と叱ったりしても、子どもの心には届きません。

○良くない例

「何回言えば分かるの」「きちんとしなさい」と遠回しな言い方はやめて、なにがどう悪かったのか伝えましょう。また、過去にやったことを注意されても理解できません。その瞬間にその場で言うようにしましょう。

《子どもを叩く躰は必要？》

○子どもを叩いて躰することは、悪影響しかありません。悪いことをしたら叩いてもよいという認識させてしまい、ほかの相手にもそのようにしてしまうことにもなります。さらには恐怖が植えつけられ、なにをするにも委縮してしまい、自己肯定感が低くなってしまいます。

ここから小学生の躰になりますが、またの機会にということで、最後に中学生の躰の例を、ある保護者の言葉より紹介します。20年以上前の話ですみません (#^^#)

先生、私はね・・・Ｙが帰って来て、玄関に靴を脱ぎ捨てると「Ｙ、靴を揃えた？」と背中に向かって言うんですよ。朝起きたら「布団たたんだ？」って言うんです。でも「靴を揃えなさい」とか「布団をたたみなさい」とは言いません。やらせないけど、やるべきことを、その都度毎回言葉で伝えます。そんなある日、親戚に泊まりに行ったら、翌朝電話があって「お宅ではどんな躰をしてるの?! Ｙは靴をキチンと揃えるし、朝起きたら自分で布団はたたむし、びっくりしました」と言うんです。やんちゃで有名なＹだから、とても驚いていました。し続けるから「躰」だと私は思っています。

中学生の頃の子どもは、押し付けられることを嫌がる時期でもあり、それは自立していくひとつの過程と言えます。このお母さんのように上手に導いていけたらいいですね!

また、責任感の強い女子の班ノートに・・・『うちの親は「勉強しなさい」って一切言いません。ただ、わたしの役目の皿洗いは、どんなに熱があってもやるように言われます』

相田みつをさんの詩に『育てたように子は育つ』とあります。やはり「親」なのですか。

躰についても、年齢によってやり方を工夫しないと、かえって子どもの心を捻じ曲げてしまう可能性もありそうなので、親が賢くならなければいけないのですね。